

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
700101	人間環境学共同演習【2ヵ年連続履修】	1~2	2×2	奥田・田畑・吉田他
期間	曜日	時限	備考：	
通年	水	1		

授業のキーワード：

人間環境学の構築、プレゼンテーション、全体的展望

授業のテーマ：

19世紀後半より学問間の分断が進み、全体的展望が失われるようになった。本研究科では、人間と環境との相関という全体的現象を参照点とすることで、自らの専門領域の位置づけを図るとともに、逆に個別的研究を深めることからこの全体的現象を照射するという、循環的な学の構築を目指している。

3名の担当者以外にも、本研究科に属する研究指導教員は積極的にこの演習に参加し、議論に加わっていくことにする。

【2ヵ年連続して履修し計4単位を修得すること】

授業の概要：

毎回、あらかじめ決められた発表者の専門とするテーマについて発表を行う。そのプレゼンテーションは、専門家相手ではなく、他の研究指導分野の院生にも理解できるように配慮することが求められる。

授業の計画：

修士課程1年次生は、卒業論文を中心としたそれまでの各人の学習成果について、それをいかにして大学院における研究につなげていくのかを発表し、他の出席者との質疑応答によってその適切さを再確認する。

修士課程2年次生の場合、修士論文のための研究の進展具合が中心となるが、その問題意識、研究方法の適切さ、予想される成果などについて、他の出席者の質問に答え、あるいはコメントを受けての検討を行う。

授業方法：

各受講生の研究テーマを中心とした発表と、それにもとづく質疑応答を行う演習形式。

達成目標：

この演習では、授業テーマに掲げた学問的態度を養い、人間と環境との相関という視点のもとに、全体的知の融合をはかり、人間環境学の構築をめざす。

評価方法：

演習への貢献と出席状況を加味して評価する。

教科書：

なし

参考文献：

各発表者が指定。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
710101	人間存在基礎論演習	1～2	2×2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：

人間存在、存在論、倫理、形而上学、歴史

授業のテーマ：

人間存在の存在論的本質について近代およびそれ以前の諸思想とそれに対する現代哲学の批判的議論を確認し、人間存在の本質を考究する。また、この存在論的な議論を基礎として人間存在の具体的なあり方を考えていく。

授業の概要：

近現代の哲学者の存在論に関する発表と議論を行う。また、いくつかのテキスト(原書)を手がかりに議論を行う。テキストについてはM.Heidegger “Sein und Zeit”、“Nietzsche”、F.Nietzsche の Fragment、和辻哲郎『人間の学としての倫理学』などを予定。

授業の計画：

- 1～2 演習の計画の説明
- 3～14 発表およびテキスト(原書)の講読と議論
- 15 前期のまとめと復習
- 16 後期の予定の確認と復習
- 17～29 発表およびテキスト(原書)の講読と議論
- 30 全体のまとめと復習

授業方法：

講読と議論、発表

達成目標：

人間存在の本質に関する現代哲学の議論を理解し、自ら哲学の論文を作成し得るようになる

評価方法：

原書の翻訳やレジュメ作成、議論への参加の状況、発表などについて総合的に評価する

教科書：

近現代のドイツ哲学の原書を中心に選定する。適宜指示を行う。

参考文献：

授業中に指示

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
720101	人間存在基礎論特論	1・2	4	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期/後期	木	2/3	

授業のキーワード：

Sein, Werden, 人—間、Ontologie,

授業のテーマ：

存在論に関する現代における基礎的な議論について、近現代の哲学者の原典あるいは2次文献に考究する。

授業の概要：

現代の人間存在に関する本質的な議論について哲学の諸文献(原書)を読み、問題について議論を行う。テキストはM.Heidegger “Sein und Zeit”、“Nietzsche”、F.Nietzsche の Fragment、などを予定。受講者は該当箇所について翻訳し、レジюмеなどを適宜準備する。

授業の計画：

- 1～2 テキストに関する説明など
- 3～14 テキスト(原書)の講読と議論
- 15 前期のまとめと復習
- 16 後期の予定の確認と復習
- 17～29 テキスト(原書)の講読と議論
- 30 全体のまとめと復習

授業方法：

原書講読と議論

達成目標：

現代の存在論に関する哲学の基礎的な議論の概要を掴み、自ら哲学の原書のある程度読みこなせるようになる。

評価方法：

受講の状況とレポート

教科書：

演習において指示する。(M.Heidegger “Sein und Zeit”、“Nietzsche”、F.Nietzsche の Fragment などの書籍あるいはコピーを使用する予定。)

参考文献：

授業中に指示

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730501	資源循環型経済社会演習	1～2	2×2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：平成26年度入学生より履修可
通年	木	1	

授業のキーワード：

循環型社会、資源循環、エネルギー、エントロピー、外部費用、拡大生産者責任、文明

授業のテーマ：

循環型社会の構築は低炭素社会・自然共生社会と並んで、持続可能な社会を実現するための主要な政策課題であり、わが国は循環型社会形成推進基本法をはじめ多数のリサイクル諸制度を制定してきた。本演習では、より良い循環型社会の実現をめざして、リサイクル諸制度の国際比較、国内循環と国際循環との整合性、資源循環とエネルギー効率、循環型社会の文明史的位置づけ等を主要テーマに、資料解析力と政策形成能力の向上を図るものである。

授業の概要：

授業の前半にテキストを輪読して内容理解を深め、後半に調査研究テーマの設定、研究計画書の作成、中間報告、最終報告と段階的な作業を課し、修士論文の作成に向けた指導を行う。

授業の計画：

<前期>

1. ガイダンス
2. 問題意識の討議
3. テキスト輪読・テーマの設定
4. テキスト輪読
5. テキスト輪読
6. テキスト輪読・仮説の検討
7. テキスト輪読・仮説の検討
8. テキスト輪読・研究計画書
9. テキスト輪読・研究計画書
10. テキスト輪読
11. テキスト輪読・資料収集と分析手法
12. テキスト輪読
13. テキスト輪読
14. 中間報告 (1)
15. 中間報告 (1)

<後期>

1. ガイダンス
2. テキスト輪読
3. テキスト輪読・資料分析と推論
4. テキスト輪読
5. テキスト輪読
6. 中間報告 (2)
7. 中間報告 (2)
8. テキスト輪読
9. テキスト輪読
10. テキスト輪読・仮説の検証
11. テキスト輪読
12. テキスト輪読
13. 最終報告
14. 最終報告
15. まとめと反省

授業方法：

テキストは輪読方式とする。各自テーマに基づく調査研究はスライド発表とする。

達成目標：

資源循環に関する学説理解と資料解析力、政策形成能力、プレゼンテーション能力を修士課程にふさわしいレベルに引き上げる。

評価方法：

発表内容60%、授業貢献度40%として評価する。

教科書：

テキストは基本的に受講生の問題意識や修得知識等に応じて選定する。

室田 武ほか『循環の経済学』学陽書房 2,400円 (ISBN4-313-81402-7 C1033 P2472)

細田衛士『グッズとバズの経済学』第2版 東洋経済新聞社 2,700円 (ISBN978-4-492-31426-5)

参考文献：

適宜指示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730201	地域経済演習	1～2	2×2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	5	

授業のキーワード：

定常化社会、成長・拡大・開発・豊かさ、GNH（国民総福祉）、地域再生

授業のテーマ：

日本再生のビジョンとして、「成熟経済」後の社会構想と人間・地域・価値を考える。

授業の概要：

テキストを輪読し、基礎理論を復習しながら最新の理論状況についても説明する。

授業の計画：

前期

1. オリエンテーション
2. 3. 4. 創造的定常経済システムの構想
5. 6. 7. 資本主義、社会主義、エコロジー
8. 9. 10. グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカル
11. 12. 13. コミュニティとしての都市
14. 15. 地域の「豊かさ」とは何だろうか

後期

1. 前期のレビュー
2. 3. 4. 自治体の課題からみた「社会保障と税の一体改革」
5. 6. 7. 進化と福祉社会
8. 9. 10. 第一の定常化と第二の定常化
11. 12. 13. 近代における私利の追求、成長・拡大
14. 15. ポスト資本主義／定常型社会における価値

授業方法：

テキストの輪読（受講者がレジュメ、報告、コメント、司会をする）を軸にして進めるが、テキスト以外にも参考文献を指示するので、多面的なコメントや書評を求める。

達成目標：

- ①専門書を精読、意見交流するなかで研究者としての主体性、自立性を養う。
- ②抽象的な理論を現実的に課題や現象にひきつけて理解できるよう心がける。
- ③論文の作成の技法、プレゼンテーション能力の訓練をする。

評価方法：

主体的、自覚的な討論への参加態度40%。発言内容の論理性40%。着想の創造性20%。

- ・地域経済学の論理、アプローチ、重要課題をよく理解している……………A
- ・上記について、部分的には不十分な点があるが、ほぼ達している……………B
- ・上記について、不十分、不正確も少なくないが、目標の半分以上のレベルは達している……C
- ・上記について、目標の半分以下のレベルにしか達していない……………D

教科書：

広井良典「創造的福祉社会」ちくま新書、2011年

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730401	財務会計演習	1～2	2×2	磯貝明
期間	曜日	時限	備考：2カ年連続履修	
通年	金	1		

授業のキーワード：

財務会計 会計制度 リース会計 IFRS

授業のテーマ：

日本企業の事業の国際化および証券市場のグローバル化にともない、企業のディスクロージャーはグローバルスタンダードに拠ることを求められてきている。この流れは、わが国の会計制度に歴史的な転換を迫るものとなり、会計ビッグバンと呼ばれる会計制度の大きな変革が進められてきた。最近では、会社法の制定や国際的な会計基準への統一化（コンバージェンス）など、会計をとりまく環境の変化によって、わが国の会計制度は大きく変貌してきている。

本演習はこうした会計制度の変革についてその内容を深く考察しようとするものである。

授業の概要：

前期にはこれまでの会計制度の変革を、後期にはとりわけリース会計基準についてとりあげる。また、修士論文指導もあわせて行う。

授業の計画：

前期

1. 日本の会計制度の動向
2. 企業会計原則と概念フレームワーク
3. 連結財務諸表制度
4. 税効果会計
5. 退職給付会計
6. 時価主義
7. 減損会計
8. キャッシュフロー計算書
9. 企業結合会計
10. 会社法会計
11. 金融商品取引法会計
12. 資産除去債務に関する会計
13. 会計制度の国際的動向
14. 会計制度の新たな展開
15. 総括・修士論文中間報告

後期

1. リース取引に関する会計上の論点
2. リース取引の本質と会計処理
3. 日本のリース会計基準の分析（レシー）
4. 日本のリース会計基準の分析（レサー）
5. 日本のリース会計基準改正に対する反応
6. 修士論文中間発表
7. リース取引の認識を巡る諸問題
8. リース取引の測定を巡る諸問題
9. セール・アンド・リースバックの会計
10. リース会計基準の展望
11. リース会計に関する論点総括
12. 修士論文指導
13. 修士論文指導
14. 修士論文指導
15. 修士論文研究報告

授業方法：

各回のテーマについて、受講生の発表の後、補足説明を行い、実態や今後の課題についてのディスカッションを行う。

達成目標：

わが国の会計制度の変遷過程を理解し、様々な会計手続きについての論点を把握することによって、わが国の会計制度の特徴を捉えることができるようになること。

評価方法：

各回の発表：100%

教科書：

下記テキストを予定しているが、受講生の興味・関心および修得知識に対応して変更することも可能であるため、開講時に受講生と相談の上、決定する。

山地範明 『基本的テキストシリーズ 会計制度 新訂版』 同文館出版 ￥2,100

藤井良広編著 『環境債務の実務』 中央経済社 ￥3,800

佐藤信彦・角ヶ谷典幸編著 『リース会計基準の論理』 税務経理協会 ￥3,200

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740401	環境経済学特論	1・2	4	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード：

科学の統合 人間と環境とのつながり 経済学史（経済思想の歴史） 所得水準と幸福 経済体制と環境

授業のテーマ：

経済学を他の学問領域と統合することを目指した環境経済学者K.W.カップや「公害」(kogai)という言葉の世界で最初に用いた経済学者都留重人の環境経済思想について取り上げる。

授業の概要：

前期では、教科書的な環境経済学とカップのそれとを比較しながら、環境問題の原因のとりえ方とその解決法について考えていく。後期では、日本の環境経済学に多大な影響を与えた経済学者都留重人の業績を振り返り、その現代と将来における意義と残された課題について論じる。

授業の計画：

(前期)

- (1) A.C.ピグーの経済学
- (2) K.W.カップの経歴と初期の思想
- (3) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』①
- (4) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』②
- (5) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』③
- (6) 『私的企業の社会的費用』①
- (7) 『私的企業の社会的費用』②
- (8) 『私的企業の社会的費用』③
- (9) カップの教育思想
- (10) アダム＝スミス『国富論』①
- (11) アダム＝スミス『国富論』②
- (12) アダム＝スミス『道徳感情論』
- (13) J.S.ミル『自由論』
- (14) J.S.ミル『経済学原理』
- (15) まとめ

(後期)

- (1) イントロダクション
- (2) 都留重人の経歴と基本思想
- (3) 『所得と福祉』①
- (4) 『所得と福祉』②
- (5) 『公害の政治経済学』①
- (6) 『公害の政治経済学』②
- (7) 『公害の政治経済学』③
- (8) 『公害の政治経済学』④
- (9) マルクスの思想
- (10) 『資本論』①
- (11) 『資本論』②
- (12) ケインズの思想
- (13) ケインズ『一般理論』①
- (14) ケインズ『一般理論』②
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

達成目標：

科学の統合の重要性について理解する。現代経済のしくみとそれが引き起こす環境問題について理解する。経済学史の重要性を理解する。

評価方法：

期末試験100%

- 環境経済学の有効性と限界をよく理解している……………A
 環境経済学について知っているがあまり説明力がない…B
 ところどころ間違っ理解している……………C
 上記のレベルに達していない……………D

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

- K.W.カップ『私的企業と社会的費用』岩波書店。
 都留重人『都留重人著作集 全13巻』講談社。
 尾高煌之助・西沢保編『回想の都留重人—資本主義、社会主義、そして環境』勁草書房。
 その他適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740501	資源循環型経済社会特論	1・2	4	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
前期/後期	木/火	4/3	

授業のキーワード：

環境、資源、エネルギー、文明、代謝、廃棄物、負の財、余剰、経済的厚生分析

授業のテーマ：

20世紀の高度に発達した物質文明は地球規模での環境破壊をもたらしたことから、21世紀は持続可能な新たな文明のあり方が模索されている。前期は文明とは人間と自然との間の物質・エネルギー代謝の仕方（様態）であるという視点から、持続可能な文明の代謝のあり方を展望する。後期は20世紀の物質文明を支えてきた大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済原則を明らかにし、持続可能な循環型社会の経済システムのあり方を展望する。

授業の概要：

前期は、各種の原料資源、エネルギー資源の特性等を概説したうえで、人間と自然との物質・エネルギー代謝と人口、経済システム、科学技術、エントロピーとの係わりを論じ、この代謝の歴史の変遷から持続可能な文明の代謝のあり方を展望する。後期は、廃棄物の市場価格や資源循環の阻害要因等を分析し、循環型社会の政策体系や環境税・デポジット制度などの具体的政策の経済分析を行う。

授業の計画：

<前期>

1. ガイダンス
2. 環境・資源・文明
3. 原料資源（鉱物資源）
4. 原料資源（生物資源）
5. 原料資源（水資源）
6. エネルギー資源（化石燃料）
7. エネルギー資源（核エネルギー）
8. 再生可能エネルギー①
9. 再生可能エネルギー②
10. 資源と人口（環境の人口圧力）
11. 資源と経済システム
12. 資源と科学技術
13. 資源とエントロピー
14. 日本の物質・エネルギー代謝
15. 文明と物質・エネルギー代謝

<後期>

1. ガイダンス
2. 市場経済と市場メカニズム
3. 廃棄物の市場価格
4. 市場価格と外部費用
5. 外部費用の発生要因（1）
6. 外部費用の発生要因（2）
7. 外部費用の発生要因（3）
8. 限界効用逓減と均等の法則
9. 企業の行動原理と供給曲線
10. 余剰と経済的厚生
11. 循環型経済構築の政策的着眼点
12. 循環型経済構築のための政策体系
13. 環境税の経済分析
14. デポジット制度の経済分析
15. 拡大生産者責任の経済分析

授業方法：

講義形式で進めますが、必要に応じてスライド・プリント等の資料を用います。

達成目標：

前期は文明を物質・エネルギー代謝の視点からとらえる方法論を修得する。後期は市場メカニズム、廃棄物の市場価格、外部費用の発生メカニズム、限界概念、経済的厚生分析の手法を理解し、環境問題の経済学的アプローチの基本を理解する。

評価方法：

期末試験で評価する。

教科書：

指定なし

参考文献：

- 佐々木信行『資源論入門』コロナ社（ISBN4-339-06598-6）
 吉野敏行『資源循環型社会の経済理論』東海大学出版会（ISBN4-486-01373-5）
 細田衛士『グッズとバズの経済学』東洋経済新報社
 植田和弘『環境経済学』岩波書店（ISBN4-00-004576-8）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740101	科学技術と経済社会環境特論	1・2	4	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	3	

授業のキーワード：

資本主義、グローバル化、リスク社会、リスクマネジメント

授業のテーマ：

冷戦終結後、世界市場が成立し、経済のグローバル化が進んでいる。こうした動きは、インターネットの普及によって加速されており、様々な問題が浮上している。また、福島第一原子力発電所の事故に見るように、現代社会なさまざまなリスクを抱えており、そうしたリスクにどのように対処したら良いのかについて解答を求められている。講義では、グローバル化とリスク社会をキーワードにこれからの社会の在り方について考えていく。

授業の概要：

前期は、マルクスの資本主義分析を振り返りながら、現在の資本主義社会を分析していく、特に世界市場の成立に伴う経済のグローバル化のもたらす問題について考察を進める。

後期のテーマは、リスク社会である。我々の生活にとってリスクを理解し、低減することは不可欠である。講義では、リスクの客観的な様相、リスクの認識、リスクへの対処といった面から我々の生活にかかわるリスクとそのコントロールについて講義する。

授業の計画：

前期

1. ガイダンス
2. 『共産党宣言』の衝撃
3. マルクスの「資本主義」分析
4. ロシア革命とソヴィエト連邦の出現
5. 豊かな社会
6. 東西冷戦
7. 冷戦下の資本主義
8. 冷戦の終結と資本主義
9. 世界市場の出現
10. 世界規模の生産活動
11. 露骨になった資本主義
12. グローバル化の分析
13. グローバル化への懸念
14. これからの経済社会
15. まとめ

後期

1. ガイダンス
2. リスク概念
3. リスクの実際
4. リスク認知とバイアス
5. リスクイメージとリスクの受容
6. リスクマネジメントの基本
7. リスクコミュニケーション
8. 自然災害
9. 犯罪
10. 製品安全
11. 食品安全
12. 金融リスク
13. 金融リスクマネジメント（1）
14. 金融リスクマネジメント（2）
15. まとめ

授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

露骨になった資本主義と世界市場の出現をキーワードにして、現代日本のおかれている歴史的状況を理解すると同時に、現代のリスク社会にあって、リスクとは何かという基礎的なことを理解し、実際のリスクがわれわれの生活にどの程度の大きさで存在しているのか、そしてそのリスクを低減するためのリスクマネジメントの意義と手法とを理解する。

評価方法：

授業への貢献度（30％）に前期試験（30％）、後期試験（40％）の結果を加味して判定する

教科書：

とくに指定せず、その都度参考文献を指示する

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740201	地域経済特論	1・2	4	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	4	

授業のキーワード：

持続可能な地域社会、グローバル/ナショナル/リージョナル/ローカル、

授業のテーマ：

日本の経済・社会を、前期—地域、後期—自動車産業という切り口から考察する。
 ～文明的転機のただなかで生き残りをかけて構造転換に邁進する自動車産業の大集積地である名古屋大都市圏—愛知県—西三河地域の変貌ぶり（産業的、空間的構造変化）を、日本経済と日本的経営の進路と関わらせて考察する。

授業の概要：

前期は、行政統計をベースに愛知県—西三河地域の地域経済の特徴・構造・問題点を探る。後期はそのリーディング産業である自動車産業が構造転換に果敢に立ち向かう姿を通して、日本の製造業（モノづくり）の進路を考える。関連する経済学の基礎理論を紹介する。

授業の計画：

前期

1. ガイダンス
2. 名古屋大都市圏の日本経済に占める比重
3. 同 全般的な構造分析
4. 愛知県の人口データ
5. 同 人口構造分析
6. 愛知県の産業データ
7. 同 産業構造分析
8. 中間まとめ
9. 愛知県の産業発展史
10. 愛知県の空間編成
11. 愛知県下自治体の財政状況
12. テキスト②による補足
13. テキスト②による補足
14. テキスト②による補足
15. まとめ

後期

1. オリエンテーション
2. データで確認する西三河自動車産業集積地
3. 空間構造で確認する西三河自動車産業集積地
4. 産業集積地に関する理論①～日本
5. ②～海外
6. 産業空洞化に関する理論①～日本
7. ②～海外
8. 中間まとめ
9. トヨタ論①～企業間関係（トヨタピラミッド）
10. ②～トヨタ生産方式
11. ③～自動車部品企業論
12. ④～グローバル立地戦略
13. 自動車産業進化論①～電気自動車とスマートタウン
14. ②～ITSと無人・自動運転
15. まとめ

授業方法：

テキストを軸に講義するが、DVD、新聞・雑誌記事を資料として活用する。

達成目標：

- ・進路選択、さらに就職後の仕事・ビジネスに役立てることを意識して、地域の経済・社会の概要—地域の産業・経済・企業・自治体・世帯等の現状と当面する諸課題—を把握する。
- ・統計の目的と種類を知り、簡単な加工ができるようになる。

評価方法：

期末試験100%で評価する

- ・地域経済と企業経営の初歩的知識を修得し、重要課題をよく理解している……………A
- ・上記について、部分的には不十分な点があるが、ほぼ達している……………B
- ・上記について、不十分、不正確な点も少なくないが、目標の半分以上のレベルには達している……………C
- ・上記について、目標の半分以下のレベルにしか達していない……………D

教科書：

岡崎信用金庫月報NO.516～NO.521 藪谷執筆論文（授業開始後に配布）
 東海自治体問題研究所編「大都市圏の構造変化～東海からの発信」自治体研究社、2013年

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760701	財務会計特論	1・2	4	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	4	

授業のキーワード：

財務会計 IFRS コンバージェンス

授業のテーマ：

前期は、財務会計の基本を深く理解するために、財務諸表の主要な項目について、その会計理論・会計処理を学ぶ。また、会計制度の変革とともに新設・改訂された会計基準についても学び、最新の財務会計の新展開について理解する。後期は、近年、日本においてIASBによって設定された国際財務報告基準（IFRS）に対応すべく、大規模かつ頻繁に会計基準の制定や改訂が推し進められているため、このIFRSへの対応をとりあげ考察していく。

授業の概要：

会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理について仕訳をまじえて詳細に解説する。また、その後、国際会計基準について総合的、体系的に論述し、その変遷と日本のIFRSへの対応をとりあげ論及する。なお、本科目は企業会計の基礎知識、とりわけ会計制度についての基本的知識および簿記処理手続についての知識が必要であり、この科目の受講に際しては、日商簿記検定2級（商業簿記）以上の知識を有していることを条件とする。

授業の計画：

前期	後期
1. 会計の意義と領域	1. 国際会計基準の概要、意義と特徴
2. 会計の法的制度	2. 従業員給付会計
3. 会計の基本構造	3. 国際財務報告基準（IFRS）
4. 利益計算の基本原理	4. 会計基準コンバージェンスの国際的動向
5. 現金・預金と金銭債権の会計	5. 日本における会計基準コンバージェンス
6. 有価証券の会計	6. 有形固定資産会計
7. 棚卸資産の会計	7. 投資不動産会計
8. 有形固定資産の会計	8. 売却目的固定資産会計
9. 無形固定資産と投資その他の資産の会計	9. 無形資産会計
10. 繰延資産の会計	10. 棚卸資産会計
11. 負債の会計	11. 金融商品会計
12. 純資産の会計	12. 引当金会計
13. 収益と費用の会計	13. 偶発債権・債務会計
14. 財務諸表の作成	14. ストック・オプション等会計
15. キャッシュ・フロー計算書	15. 損益会計論（収益会計）

授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、その内容について必要に応じて受講生の意見を求め、討議を行う。

達成目標：

前期：貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理が理解でき、会計手続きの最終段階である財務諸表を正式に作成できること。
後期：国際財務報告基準（IFRS）を理解し、日本におけるコンバージェンスの際の論点を把握し、IFRSがわが国会計実務へ与える影響を考察できるようになること。

評価方法：

レポート点から欠席回数分を減点する。したがって欠席がなければレポート点100%。なお、受講態度（講義への積極的取り組み・遅刻など）についても評価対象とする。

教科書：

上野清貴 『財務会計の基礎 第3版』 中央経済社 2013年 ¥2,940
菊谷正人編著 『IFRS・IAS徹底解説』 税務経理協会 2009年、¥3,150
国際会計基準委員会財団 『国際財務報告基準（IFRS）2011』 中央経済社 2011年、¥15,750

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750201	環境アセスメント演習及び実習	1～2	2×2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	5	

授業のキーワード：

野外調査 文献調査 データ処理 報告

授業のテーマ：

自分の研究テーマに必要なデータを集め、データに基づいて考え、考えを他人に伝える力を修得する。

授業の概要：

卒業研究の進捗状況、機器の使用状況、野外観測の実施について報告してもらい、議論を行う。

授業の計画：

次の事項について本授業のみでなく、日常的に議論して、卒業研究の完成を目指す。

- ・研究テーマの決定
- ・研究計画の立案
- ・実験手法の検討
- ・データの処理と検討
- ・機器の管理
- ・研究報告

授業方法：

毎週、研究の進捗状況、野外観測の計画、分析機器の使用状況などを研究グループと個人毎に報告してもらう。報告内容に応じて、議論やアドバイスをを行う。

研究テーマに関する文献を読み、その内容の紹介も行ってもらう。

卒業研究の中間報告を数回行ってもらう。

達成目標：

一つのテーマに沿って、文献調査、野外観測、データ処理、報告書の作成、プレゼンテーションができる。

評価方法：

データなどの報告書とプレゼンテーションの内容で評価する（100%）。

測定の方法、データ、データ処理結果、考察が報告できる… A

測定の方法、データが報告できる…………… B

測定の方法とデータが報告できる…………… C

Cのレベルに達しない…………… D

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

33,000円（試薬、器具などの消耗品代）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750301	環境リスク管理演習及び実習	1～2	2×2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	3	

授業のキーワード：

環境リスク、生態系サービス、災害、景観生態学、GIS

授業のテーマ：

生態系サービスの維持と向上の視点に基づく環境リスク管理について深く議論し、修士論文等の執筆に向けた実践的指導を行う。

授業の概要：

各自のテーマ、関心によりテキストを選択し読み進める。また適宜関連文献のレビュー発表や調査研究についての指導を行う。なお本演習及び実習の受講に際しては、1年次での環境リスク管理基礎実習の受講を必須とする。

授業の計画：

(前期)

1. 前期に向けた導入、テキストの選択
2. ～14. テキストの購読、レビュー発表、調査指導、データ分析指導
15. まとめ

(後期)

1. 前期内容の確認と後期に向けた導入
2. ～12. テキストの購読、レビュー発表、調査指導、データ分析指導
13. ～15. 研究計画書執筆指導

授業方法：

質疑応答による演習形式を基本とし、調査研究指導においては適宜実習形式をとる。

達成目標：

1年次においては環境リスク管理およびその周辺についての知識の涵養に努め、プレゼンテーションを含む研究のための様々な技能やノウハウを身につける。年次の終わりには自らの研究テーマを定め、研究計画書を書き上げる。

評価方法：

発表内容 (50%)、授業への貢献度 (50%)

教科書：

特に指定しない。各自が必要に応じて選択し、購入する。

参考文献：

演習時に適宜指定する。

実験・実習・教材費：

3,000円 (コピー代、消耗品代)

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750401	環境リスク管理基礎実習	1	2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード：

環境リスク、リモートセンシング、GIS、リスクコミュニケーション

授業のテーマ：

人間活動と自然環境の間で双方向に及ぼされる環境リスク問題について、その概念と分析・評価手法の基礎的事項を実習を通じ理解する。実習では衛星画像などのリモートセンシングデータや地理情報システム（GIS）を用いた地域分析の手法を修得する。さらには行政・企業・民間にわたるリスクコミュニケーションの促進に向けた、情報整備・伝達手法について理解する。

授業の概要：

衛星画像解析とGISの活用に焦点をあて、実習を進めていく。植生情報をおもに扱うが、必要があれば各々の研究テーマ等へのこれら手法の利活用についても考え、授業に取り入れていく。

授業の計画：

(前半)

1. 環境リスクの概念
2. 衛星画像解析の基本
3. 衛星画像による植生解析
4. 衛星画像による地形解析、裸地・崩壊地抽出
5. 衛星画像による災害情報の抽出

(後半)

6. GISの操作の基本（ArcGIS）
7. GISによる景観情報の分析
8. GISのリスク管理への適用
9. GISの情報公開・アカウントビリティへの適用

授業方法：

ソフトウェアの操作を主とする実習形式をとり、適宜課題を与える。また事例分析のための文献購読を交える。

達成目標：

環境リスク問題についての定量的アプローチの基本概念を理解し、専門的課題に対処できる衛星画像解析技術やGIS活用技術の基本を身につける。

評価方法：

レポート（70%）と授業への取り組み（30%）で評価する。

教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

今木洋大、『Quantum GIS入門』、古今書院、3,000円+税
 長澤良太・原慶太郎・金子正美、『自然環境解析のためのリモートセンシング・GISハンドブック』、古今書院、4,500円+税
 モニカ G.ターナー・ロバート V.オニール・ロバート H. ガードナー、『景観生態学—生態学からの新しい景観理論とその応用』、文一総合出版、3,800円+税
 加藤正人、『森林リモートセンシング 第3版—基礎から応用まで』、日本林業調査会、2,857円+税

実験・実習・教材費：

30,000円（衛星画像データ購入費、消耗品費として使用）。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750501	環境分析化学演習及び実験	1～2	2×2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	3・4	

授業のキーワード：

野外調査 文献調査 データ処理 報告

授業のテーマ：

自分の研究テーマに必要なデータを集め、データに基づいて考え、考えを他人に伝える力を修得する。

授業の概要：

卒業研究の進捗状況、機器の使用状況、野外観測の実施について報告してもらい、議論を行う。

授業の計画：

次の事項について本授業のみでなく、日常的に議論して、卒業研究の完成を目指す。

- ・研究テーマの決定
- ・研究計画の立案
- ・実験手法の検討
- ・データの処理と検討
- ・機器の管理
- ・研究報告

授業方法：

毎週、研究の進捗状況、野外観測の計画、分析機器の使用状況などを研究グループと個人毎に報告してもらおう。報告内容に応じて、議論やアドバイスをを行う。

研究テーマに関する文献を読み、その内容の紹介も行ってもらおう。

卒業研究の中間報告を数回行ってもらおう。

達成目標：

一つのテーマに沿って、文献調査、野外観測、データ処理、報告書の作成、プレゼンテーションができる。

評価方法：

データなどの報告書とプレゼンテーションの内容で評価する（100%）。

測定の方法、データ、データ処理結果、考察が報告できる…A

測定の方法、データが報告できる……………B

測定の方法とデータが報告ができる……………C

Cのレベルに達しない……………D

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

33,000円（試薬、器具などの消耗品代）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760201	環境アセスメント特論	1・2	4	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード：

水俣病 火葬場 核融合 琵琶湖 総合開発 アセスメントの有効性

授業のテーマ：

現代社会で起こっている、様々の事業と環境との関わりを具体的に述べ、環境アセスメントの有効性について考察する。

授業の概要：

前期では水俣病について、総合的に講述し、今尚、続いている問題について考察する。後期では、火葬場設営、未来エネルギーと言われる、核融合などについて現在の取り組みについて講述する。

授業の計画：

(前期)		(後期)
(1) 水俣病とは	①	(1) 琵琶湖総合開発と人工島 ①
(2) 〃	②	(2) 〃 ②
(3) 〃	③	(3) 火葬場建設 ①
(4) 発端から原因の追及		(4) 〃 ②
(5) 疫学的追及	①	(5) 〃 ③
(6) 〃	②	(6) 核融合とエネルギー ①
(7) 病理学的追及	①	(7) 〃 ②
(8) 〃	②	(8) 核融合と放射線 ①
(9) 〃	③	(9) 〃 ②
(10) 臨床学的追及	①	(10) 放射線
(11) 〃	②	(11) 放射線の評価
(12) 原因への接近	①	(12) 環境アセスメント
(13) 〃	②	(13) 戦略的環境アセスメント
(14) 推理の状況		(14) 環境アセスメントの有効性
(15) 水俣病とその後		(15) まとめ

授業方法：

基本的には講義形式で進める。資料は適宜配布する。

達成目標

具体的な環境問題を解析し、どのようなアセスメントを行えば有効かを理解できるようにする。

評価方法：

期末試験100%

教科書：

なし。

参考文献：

適宜指示する。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760301	環境リスク管理特論	1・2	4	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード：

環境リスク、生態系サービス、災害、景観生態学、GIS

授業のテーマ：

生態系サービスを最大限活用し、災害リスクや生活上のリスクを回避、あるいは軽減するための環境リスク管理の理論と方策について、地域をはじめとする空間を「景観要素の不均一な場」としてとらえ、そのパターンとプロセスが生物ならびに生態系に与える影響を検討し適切な土地利用のあり方を提言する景観生態学の立場に基づき論ずる。

授業の概要：

前期は景観生態学の理論と分析手法について解説し、その環境保全や地域計画に果たすべき役割について考える。後期は山林から農村、都市部に至るリスク管理に向けた応用について、事例を交え解説する。

授業の計画：

(前期)

1. 序論
2. 景観生態学の概念と方法
3. 景観とスケール
4. 景観のパターン
5. 景観パターンの成因
6. 景観パターンの成因
7. 景観パターンの定量化
8. 景観の攪乱動態
9. 生物と景観パターン
10. 景観における生態的プロセス
11. データの取得と分析(衛星画像)
12. /
13. / (空中写真)
14. / (地理情報システム)
15. /

(後期)

1. 農業生態系におけるリスク管理
2. /
3. /
4. 里山の生態系におけるリスク管理
5. /
6. /
7. 河川生態系におけるリスク管理
8. /
9. /
10. 都市生態系におけるリスク管理
11. /
12. /
13. 自然再生のデザインと環境リスク管理
14. /
15. /

授業方法：

通常の講義形式をとる。図表やスライド等を多用し、視覚的に理解させることを心がける。

達成目標：

景観生態学の理論に基づく環境リスク管理手法について理解し、将来における国土・土地利用管理のあり方を考え提言できる力を身につける。

評価方法：

期末試験(60%)と授業への取り組み(40%)で評価する。

教科書：

森本幸裕編、『景観の生態史観—攪乱が再生する豊かな大地』、京都通信社、2,000円+税

参考文献：

森本幸裕・小林達明編、『最新 環境緑化学』、朝倉書店、3,900円+税
 武内和彦ほか編、『里山の環境学』、東京大学出版会、2,800円+税

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760401	環境倫理特論	1・2	4	内藤可夫
期間	曜日	時限	備考：	
通年	木	4		

授業のキーワード：

Nietzsche, Nihilismus, Natur, Leib, Erde, Uebersensch

授業のテーマ：

Friedrich Nietzscheが近代哲学のNihilismusを主張し、Uebersenschの必要を説いたその内実として、ErdeとしてNaturの意味を転換していたことを原典に読み解く。

授業の概要：

Friedrich NietzscheのAlso sprach Zarathustra (Kritische Gesamtausgabe VII) をテキストとし、講読をおこなう。

授業の計画：

前半

1. テキストについて
- 2～14. Vorrede 講読
15. まとめ

後半

1. 前半復習と確認
- 2～14. VorredeおよびVon den Veraechtern des Leibsなど講読
15. まとめ

授業方法：

講読。テキストの独文を訳し、解釈、分析、を行う。

達成目標：

近代思想批判の出発点にある本書の講読を通じ、Friedrich Nietzscheの主張するErde, Natur,そしてLeibの哲学的な意義を理解する。

評価方法：

- A 独文原書を理解し、Friedrich NietzscheのいうErdeおよびNaturについて理解している
- B 独文原書を理解し、Friedrich NietzscheのいうLeibの意味の転換について理解している
- C 独文原書を理解し、Also sprach Zarathustraの歴史的意義を理解している
- D 独文原書を理解できない。

教科書：

Also sprach Zarathustra (KSA、KGWなど)

参考文献：

適宜指示する

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760901	環境分析化学特論	1・2	4	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
前期/後期	金/火	2/2	

授業のキーワード：

機器分析 分光分析 クロマトグラフ分析 電位差分析

授業のテーマ：

環境試料中の化学成分を測定するために分析機器が用いられることが多い。分析機器を利用する場合、使用方法は比較的短期間で習得することができる。しかし、その原理を理解しようとすると、化学だけでなく物理学の知識も必要になるため、それほど容易ではない。本講義では機器分析のうち、光と物質の相互作用を利用する分析法である分光分析法と、物質の電気的性質を利用した分析法であるイオンクロマトグラフ法と電位差分析法を取り上げて、その原理を紹介する。

授業の概要：

分光分析の基礎となる光と物質の相互作用について解説したあとで、代表的ないくつかの分光分析法を紹介する。

イオンクロマトグラフ法については原理と実際の測定例を示す。

電位差分析についてはその原理である酸化還元電位について説明した後、この分析法の代表的なものであるpHメーターについて説明する。

授業の計画：

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 元素と原子 | 16. 原子吸光分析(1) 測定原理 |
| 2. 原子の構造 | 17. 原子吸光分析(2) 機器の概要 |
| 3. 原子オービタル | 18. 原子吸光分析(3) 測定例 |
| 4. 原子オービタルと電子配置 | 19. 発光分光分析 測定原理と機器の概要 |
| 5. 電子配置と元素の周期性 | 20. 蛍光分析(1) 測定原理 |
| 6. 最外殻電子と原子の電子式 | 21. 蛍光分析(2) 機器の概要 |
| 7. 光子の波長とエネルギー | 22. 蛍光分析(3) 測定例 |
| 8. 光子と物質の相互作用 | 23. 赤外吸収法(1) 分子の運動 |
| 9. 吸光光度法 | 24. 赤外吸収法(2) 分子の運動と光の相互作用 |
| 10. 検量線を利用した濃度の算出 | 25. 赤外吸収法(3) TOC計の測定原理 |
| 11. ランベルト・ベールの法則(1) | 26. イオンクロマトグラフ分析 |
| 12. ランベルト・ベールの法則(2) | 27. 酸化還元電位 |
| 13. 分光光度計(1) | 28. 電位差分析 |
| 14. 分光光度計(2) | 29. pHメーター |
| 15. まとめ(1) | 30. まとめ(2) |

授業方法

配布資料に基づいて、板書を中心に講義を進める。

講義の最初に前回の講義の内容確認のための小テストをする。解答と解説の後に、当日の講義を始める。講義の最後にも当日の理解度を確認するための小テストを行う。

達成目標

・代表的な分析機器の概要と測定対象、測定の原理がわかる。

評価の方法

期末試験（100％）による。

- 代表的な分析機器の概要と測定対象がわかる。測定の原理がわかる。… A
 代表的な分析機器の測定対象と概要がわかる。…………… B
 代表的な分析機器の測定対象がわかる。…………… C
 Cのレベルに達しない…………… D

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770101	臨床心理査定演習	1	4	高橋・坪井・三後

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	5	

授業のキーワード：

心理査定 投映法 知能検査 心理検査

授業のテーマ：

臨床心理士として必要不可欠な臨床心理査定の実践を学びます。特に、病院や精神科クリニック等の病院心理臨床現場において通用する心理査定の技法とその実施方法を習得します。

授業の概要：

臨床場面で実際に臨床心理査定が実施できるように、教育・訓練を行います。

授業の計画：

<前期>

- 1 オリエンテーション
- 2～3 投映法について（ロールシャッハ法テスト体験を含む）
- 4～14 ロールシャッハ法を中心とした投映法の実践（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

<後期>

- 1～5 知能検査（実施方法・分析・解釈等）
- 6～10 発達検査（実施方法・分析・解釈等）
- 11～14 その他の心理検査（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

授業方法：

講義および演習・実習（テスト体験・テスト体験含む）形式で行います。臨床心理査定を本当に自分のものとして習得できるか否かは、各自の主体性にかかっていますので、積極的な学習意欲に期待します。

達成目標：

臨床心理士の基本的姿勢と倫理について学ぶとともに、総合的、臨床的な見立てと対処方法など、臨床現場で役立つ具体的な臨床心理査定の習得を目指します。

評価方法：

授業への取り組み（50%）およびレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

ロールシャッハ法テキストは大学院でまとめて購入します。詳細は授業の中で説明します。

参考書：

池田豊應編「臨床投映法入門」ナカニシヤ出版（税込2,800円）
その他、必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770301	臨床心理基礎実習	1	2	高橋・坪井・坂本

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	3・4	

授業のキーワード：

臨床心理士 心理療法 心理面接 遊戯療法 箱庭療法

授業のテーマ：

心理面接を行うために必要な基本的態度や倫理について学び、面接の技法を体験的に理解します。また、遊戯療法や箱庭療法の観察・実習を通して各技法の基本を理解することをねらいとします。

授業の概要：

前半は臨床心理士としての基本について学び、後半はロールプレイ等によりセラピストとしての基本的態度の涵養をはかります。

授業の計画：

<前期>

- ①合同カンファレンス（1）
- ②心理臨床に関する倫理について
- ③心理臨床に関する関連法規について
- ④合同カンファレンス（2）
- ⑤心理面接の基本的態度
- ⑥～⑦学外関連機関見学
- ⑧合同カンファレンス（3）
- ⑨～⑪⑬ロールプレイ実習
- ⑫合同カンファレンス（4）
- ⑭遊戯療法観察事例の検討
- ⑮前期のまとめ

*カンファレンス（M2と合同）基本は第2金曜日（前期・後期）

*定例授業時間外に実施（前期・後期）

- ・見学実習（病院・クリニック・情緒障害児短期治療施設・私設心理相談室 等）
- ・遊戯療法観察（人間環境大学附属心理相談室）前期のみ

<後期>

- ①学外関連施設見学
- ②「来談者中心療法」ビデオ視聴と検討
- ③合同カンファレンス（5）
- ④～⑥箱庭実習（事例の提示・実習）
- ⑦合同カンファレンス（6）
- ⑧～⑩事例検討（院生担当事例について）
- ⑪合同カンファレンス（7）
- ⑫～⑭実習先事例検討
- ⑮合同カンファレンス（8）

授業方法：

基本的事項については講義を行います。演習・実習が中心となります。

達成目標：

臨床心理士としての基本を身につけることを目標とします。

評価方法：

授業への取り組み（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

参考文献：

実験・実習・教材費：

30,000円（実習教育・教材費および消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770401	臨床心理実習	2	2	渡辺・田畑・三後
期間	曜日	時限	備考：3時間連続	
通年	金	3・4		

授業のキーワード：

臨床心理実践、臨床心理学的援助、臨床心理学的査定、心理療法、カウンセリング

授業のテーマ：

臨床心理士として現場で働くために必要な、一人一人のクライアント（患者）に即した、臨床心理学的査定（見立て、診断、方針）と臨床心理学的援助方法（カウンセリング・心理療法）とを、実際のケースを通して学び、習得する。

授業の概要：

院生は、本学附属臨床心理相談室及び学外実習施設においてケースを担当すると共に、毎回レポートを作成し、同時に、授業において担当ケースを報告することで、教員による指導、教育、スーパービジョンを受ける。

授業の計画：

大学院教員及び本学附属臨床心理相談室スタッフによる指導、教育、スーパービジョンに基づき、本学附属臨床心理相談室において、実際の事例を学生に担当、実習させ、事例の心理面接・心理査定・カウンセリング（心理療法）について、臨床的な指導、教育を行なう。また、精神病院・精神科クリニック・情緒障害児短期治療施設・小中学校など学外実習施設において、本学学外講師の指導、教育、スーパービジョンの下に、事例を担当、実習させて、その臨床的な指導、教育を行なう。

授業方法：

院生は、本学附属臨床心理相談室、及び精神科病院、クリニック、児童施設等でさまざまなクライアント（患者）を実際に担当し、臨床心理学的面接、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助（カウンセリング・心理療法）を実習すると共に、学内授業では毎回院生に担当しているクライアント（患者）についての事例報告をさせ、グループスーパービジョンによる臨床的、実践的な指導、教育を行なう。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

実習実践態度（50%）、授業への取り組み（30%）、レポート評価（20%）。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

30,000円（病院実習費・謝礼・教材費・消耗品等）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770201	心理学特別演習	1～2	2×2	渡辺・田畑・高橋・坪井・三後
期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修	
通年	水	3		

授業のキーワード：

臨床心理学、研究方法、修士論文

授業のテーマ：

大学院における講義、及び臨床心理学実習、演習から得た知見を、心理学の先行研究を踏まえながら、文献的、理論的、臨床的な、臨床心理学的研究、考察の訓練を行ない、最終的には修士論文としてまとめることを目的とする。

授業の概要：

院生が自身の研究内容を発表、報告し、担当教員全員による指導を受ける。

授業の計画：

1年次前期末には院生の研究テーマを考慮しながら、教員合議の上、研究科委員会に諮って研究指導教員を決定する。院生は、研究指導教員の指導を受けて研究テーマを定め、深化させ、修士論文へと集約させる。本演習においては、研究指導教員以外の教員や他院生との共同討議を積極的に進め、自己の研究の広がりや深まりを図り、院生が研究の多様な可能性に対して開眼し成長するように指導する。

授業方法：

院生は、大学院におけるさまざまな講義、及び「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理査定演習」、そしてケース担当による臨床心理実践などから得た知見を、心理学、臨床心理学の多様な理論と照合させながら、担当教員の指導、教育を受けると共に、他の教員が全員出席する集団討議の場で研究を発表し、自身の研究テーマを探り、修士論文としてまとめていく。

達成目標：

臨床心理学徒としての研究論文の作成。

評価方法：

研究発表とその内容（50%）、授業への取り組み（50%）。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780101	臨床心理学特論	1	4	渡辺雄三
期間	曜日	時限	備考：	
通年	火	3		

授業のキーワード：

臨床心理学、臨床心理士、心理療法、クライアント

授業のテーマ：

「いかにクライアントを理解し、手助けするか」を基本テーマとして、臨床心理士として必要不可欠な臨床心理学の理論と方法を学ぶ。精神病院や精神科クリニック等の病院心理臨床を始めとして、さまざまな臨床現場において通用する、心理面接・心理療法・心理査定の理論と技法とを学習する。また臨床心理士の基本的な臨床姿勢と倫理についても学ぶ。

授業の概要：

「臨床心理学の方法」すなわち、臨床心理士はいかにクライアントを理解し、クライアントの手助けをするかについて、1) 臨床心理学という学問の方法、2) 臨床心理学による見立ての方法、3) 臨床心理学による手助けの方法（心理療法）、の構成によって授業を進める。

授業の計画：

担当教員の執筆による教科書『私説・臨床心理学の方法』に沿って、また適宜担当教員の著書や研究論文を紹介しながら、臨床的、実践的な臨床心理学の理論と技法を学ぶ。

授業は次の計画によって進められる。

前期	後期
1回～2回 第1章「臨床心理学の原則」	1回～3回 第8章「手助けの方針を決め、クライアントに伝え、合意する」
3回～5回 第2章「臨床心理学がクライアントを理解する視点と方法」	4回～5回 第9章「クライアントにかかわる」
6回～7回 第3章「臨床心理学の見方、考え方」	6回～7回 第10章「クライアントにかかわりながら考え続ける」
8回～9回 第4章「クライアントに会う」	8回～10回 第11章「クライアントの自己理解と自己修復を助ける」
10回～11回 第5章「クライアントを理解する」	11回～13回 第12章「心理療法における「こころ・からだ」の作業」
12回～13回 第6章「クライアントを査定する」	14回～15回 第13章「クライアントと共に歩き続ける」
14回～15回 第7章「病態水準論」	

授業方法：

上記の授業計画に沿って、講義し、臨床心理士として必要な基本的な臨床心理学の理論、技法、臨床姿勢、倫理等について学び、自由に相互討論する。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

授業への取り組み（70%）とレポートによる評価（30%）。

教科書：

渡辺雄三『私説・臨床心理学の方法』（金剛出版）（5,800円）

参考文献：

渡辺雄三『病院における心理療法』（金剛出版）

渡辺雄三『夢分析による心理療法』（金剛出版）

渡辺雄三『夢が語るこころの深み』（岩波書店）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780201	臨床心理面接特論	1	4	田畑洋子

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：

心理療法、人格変容、事例研究

授業のテーマ：

臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度への理解を深め、心理療法を通しての人格変容の実際に触れることにより、心理臨床実践への動機づけを高めることを目的とする。また、心理療法の各種理論とそれに基づく実践について学び、それぞれの特徴について理解していく。

授業の概要：

心理療法に関する各種理論の基本的概念について学び、担当教員の事例や専門誌掲載の公表事例を検討することにより、理論が実践にどのように生かされるかについて理解を深める。

授業の計画：

- 前期 ①オリエンテーション、臨床心理面接を行う基本的態度・倫理について
 ②来談者中心療法～基本的概念と事例の検討
 ③精神分析的な心理療法～基本的概念と事例の検討
 ④ユング派心理療法～基本的概念と事例の検討
 ⑤遊戯療法～基本的概念と事例の検討
 ⑥行動療法～基本的概念と事例の検討 * 各項2～3時間を充当
- 後期 ①認知行動療法～基本的概念と事例の検討
 ②家族療法～基本的概念と事例の検討
 ③日本の心理療法について
 ④箱庭療法～基本的概念と事例の検討
 ⑤親面接～基本的考え方と事例の検討
 ⑥学校での心理面接～基本的考え方と事例の検討 * 各項2～3時間を充当

授業方法：

各項について報告者がレジュメを作成、発表し、全員で討議する。
 来談者中心療法・遊戯療法・箱庭療法・親面接については担当者が講義を行う。

達成目標：

各種心理療法についての特徴を学び、それらに通底する臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度について理解する。

評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

教科書：

使用しない。その都度文献を紹介する。

参考文献：

授業中に随時紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780301	臨床心理査定特論	1・2	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	5	

授業のキーワード：

心理査定、見立て、人格理解、病態水準

授業のテーマ：

臨床心理査定についての基礎から臨床実践的な使用方法に至るまでの習得を目標とします。査定は心理療法と切り離すことのできない技法であり、その理解と実践力は臨床的な力ともなります。基礎的な施行法や分析法と共に、病態水準の診断、人格や知性の判断、感情や対人関係の在り方などの解釈をめぐって検討を行っていきます。

授業の概要：

査定や見立ての基礎的な理論を習得することから始めて、質問紙法や投映法の理論的な背景を考え、臨床実践的な技法を理解することに繋げていくことになります。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～3. 査定と見立て
- 4～6. 心理検査の理論と概要
7. 人格検査について
8. 人格検査施行（1）
9. 人格検査分析と解釈
10. 事例検討（1）
11. 人格検査施行（2）、分析と解釈
12. テストバッテリーについて
- 13～14. 事例検討（2）
15. まとめ

授業方法：

まずいくつかの基礎的な論文を購読する。そして徐々に実践的な心理アセスメントを体験しながら、各技法の特徴や解釈法を身につけるための学習を行います。それと併行して臨床実践の中でどのように使用されるのかを概説し、議論していきます。

達成目標：

臨床心理査定を学び、概論から臨床実践までの理解をすることが目標となります。

評価方法：

平常点（出席状況および受講態度）50%とレポート（50%）によって総合的に評価します。積極的に発言することが求められ、特に遅刻・欠席は厳しい評価になります。

教科書：

特にありません。

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780401	心理療法特論	1・2	2	小泉規実男

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード：

「現代精神分析の趨勢」「精神分析療法の鍵概念」「転移・逆転移」
「セラピストの自由連想（もの想う）能力」「精神分析的思索」

授業のテーマ：

「精神分析的療法におけるクライアントとセラピストの自由連想法的相互探求」

授業の概要：

現代精神分析の趨勢・鍵概念と、講師の臨床実践を毎回提示する。受講生はそれらに対する理解や自由連想法的過程を自己観察し、言語化したレポートを毎回提出していただく。もって、逆転移を治療的活用する自己観察力や精神分析的思索のあり方について、体験的に学ぶことを目的とする。

授業の計画：

精神分析療法とりわけ現代対象関係論は、転移＝逆転移という無意識的交流を介して再燃される内的対象関係を意識化することを目指す理論と技法論の総称である。その際、技法論や構造論を理論的に習得の一方で、逆転移を治療的に活用する自己観察力や自由連想的に「もの想う」力などの精神分析駆な思索が訓練として求められる。

ここでは、最初の6回で「現代精神分析の趨勢」と精神分析の鍵概念（「プロセスノートの書き方」「転移・逆転移」「最早期記憶」「夢」「初回面接」）を最初に押さえる。その上で、講師自身による事例報告を中心とした精神分析の実践を9回提示する。受講生は、それらの鍵概念や臨床実践報告を聴いて理解したことや連想したことを自己観察し、できるだけ知性化せずに自由連想法的に語っていただくことで、集団での討論を深めていく。更に授業後に、その過程や思索した内容をレポートとして記述し、24時間以内に講師のメールアドレス宛に送信していただく。その返信メールに、次回までに予習して頂く「講義ノート」「事例報告」などを毎回送信する。

授業方法：

授業は円卓にて行う。二回目以降は、事前送信した資料の補足的説明を行い、それに対する受講生の理解や連想を自由連想法的に語って貰うことで、精神分析的思索を深めていく。

達成目標：

逆転移を治療的活用する自己観察力や精神分析的思索のあり方について、体験的に学ぶ。

評価方法：

8割以上の出席率を最低条件とし、「授業への取り組み」20％・「毎回授業後に提出して貰うレポートの内容」80％によって評価する。期末のレポート提出や試験は行わない。

教科書：

教科書は特になし。但し、2回目以降、「講義ノート」「実践報告」を返信メールにて送信する。

参考文献：

土居健朗著『方法としての面接』1977、医学書院
小此木敬吾著『対象喪失』1979、中公新書
ベルトラン・クラメル著『ママと赤ちゃんの心理療法』1994、朝日新聞社
松木邦裕著『対象関係論を学ぶ』1996、岩崎学術出版社

実験・実習・教材費：

特になし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781701	投映法特論	2	2	森田美弥子

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	A	

授業のキーワード：

ロールシャッハ法、投映法による人間理解、臨床心理査定

授業のテーマ：

ロールシャッハ法を用いて、投映法による人間理解について学ぶ。

投映法は、臨床心理査定の「技法」と同時に、半構造化面接のような特徴ももっている。検査実施場面でのすべての行動は分析・解釈に役立つものである。被検査者がそこで何を体験しているか考えながら、査定の作業を進めていく必要がある。

授業の概要：

ロールシャッハ法の分析・解釈について、従来の解釈仮説など理論的背景を概観し、実例の検討を行う。名古屋大学式ロールシャッハ法を中心に扱うが、ロールシャッハ法の実施からスコアリングまでの基礎は、どの技法でもよいので身につけていることを前提とする。

授業の計画：

第1日目：量的分析

- ・各スコアの解釈仮説。スコアリングの留意点。
- ・数量指標の意味。カテゴリーごとの特徴把握。
- ・名大式ロールシャッハ法について。
- ・「感情カテゴリー」と「思考・言語カテゴリー」

第2日目：質的分析

- ・継列分析のポイント。
- ・カード特性。
- ・事例検討①
- ・実施方法および記録の仕方。

第3日目：実践的活用

- ・総合的解釈。水準の見立て。パーソナリティの記述。
- ・事例検討②
- ・フィードバックの仕方。
- ・まとめ。

授業方法：

主として前半は配布資料にもとづく講義を中心に進めるが、受講生自身が考え全体で討議する時間をとる。後半に事例検討を行う。受講生が実施したロールシャッハ法を発表し、全員で検討する。（あらかじめ発表者を決めて準備をしておいてください）

達成目標：

単なる知識や技術の習得ではなく、ロールシャッハ法などの臨床心理査定技法の背景にある意味を理解することを目指す。

評価方法：

授業への関与度（出席および発言など）…60%、レポート…40%

教科書：

使用しない。

参考文献：

- 名古屋ロールシャッハ研究会：編『ロールシャッハ法解説－名古屋大学式技法－』2,400円
 森田ほか『実践ロールシャッハ法－思考・言語カテゴリーの臨床的適用』ナカニシヤ出版
 2,520円
 松本・森田・小川：編『児童・青年期臨床に生きるロールシャッハ法』金子書房 3,500円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780501	グループ・アプローチ特論	1・2	2	伊藤義美
期間	曜日	時限	備考：	
後期	集中	E		

授業のキーワード：

グループ・アプローチ、パーソンセンタード・エンカウンター・グループ、グループ・プロセス、グループ・アウトカム（効果）

授業のテーマ：

小グループやグループ状況を活用する心理臨床のグループ・アプローチは、心理治療、心理的成長、教育・研修、訓練に用いられる。グループ・アプローチの種類と特徴、グループのプロセスとアウトカム（効果）、グループ・ファシリテーション、研究方法と研究成果などを学ぶ。

授業の概要：

パーソンセンタード・エンカウンターグループ（PCEG）などのエンカウンター・グループと集団心理療法についてその特徴や意義、方法、グループ・プロセス、グループ効果、様々なグループ実践の展開と諸問題を明らかにする。

授業の計画：

1. グループ・アプローチの定義と種類を概説する。
2. グループ・アプローチの歴史と現状を概説する。
3. グループ・アプローチの立場と理論(1)を解説する。
4. グループ・アプローチの立場と理論(2)を解説する。
5. グループ・アプローチの実際(1)について紹介・解説する。
6. グループ・アプローチの実際(2)について紹介・解説する。
7. グループ・アプローチの実践事例(1)の理解を深める。
8. グループ・アプローチの実践事例(2)の理解を深める。
9. グループ・アプローチの体験学習(1)を行う。
10. グループ・アプローチの体験学習(2)を行う。
11. グループ・アプローチの研究(1)について紹介・解説する。
12. グループ・アプローチの研究(2)について紹介・解説する。
13. グループ・アプローチの教育・訓練について紹介・解説する。
14. グループ・アプローチの課題と・倫理について解説する。
15. グループ・アプローチの発展と可能性について考える。

授業方法：

基本的には講義形式で進めるが、必要に応じて配布資料の解説、ビデオとDVDの視聴、グループ事例の検討、グループ体験学習、全体討論などを行ってグループ・アプローチの理解を深める。

達成目標：

グループ・アプローチに関して基本的な理論と実際についての理解を深める。

評価方法：

平常点…50%、レポート…50%

教科書：

伊藤義美編著、『パーソンセンタード・エンカウンターグループ』、ナカニシヤ出版、2,940円

参考文献：

伊藤義美編著、『ヒューマニスティック・グループ・アプローチ』、ナカニシヤ出版、2,310円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780801	心理学研究法特論	1	2	

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	1	

授業のキーワード：

相関係数、ノンパラメトリック検定、質問紙調査、因子分析、行動観察

授業のテーマ：

心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。

授業の概要：

調査研究を行うために必要な基礎的統計技能について説明する。前半は相関係数の算出および有意性検定、集計表の分析および度数検定について解説し、後半はより実践的な質問紙調査の作成方法と分析方法について因子分析の概要とあわせて解説する。

授業の計画：

第1回	2変数の相関①	第9回	順位についての検定
第2回	2変数の相関②	第10回	質問紙調査の実施と分析①
第3回	2変数の相関③	第11回	質問紙調査の実施と分析②
第4回	相関係数の有意性検定①	第12回	質問紙調査の実施と分析③
第5回	相関係数の有意性検定②	第13回	因子分析①
第6回	度数についての検定①	第14回	因子分析②
第7回	度数についての検定②	第15回	行動観察法の基礎
第8回	度数についての検定③		

授業方法：

教科書に沿った解説と計算課題を中心に進めていく。毎時間関数電卓を携帯すること。また授業以外にも課題を課すこともある。

達成目標：

修士論文作成に必要な心理統計の基礎知識とデータ解析方法の修得を目標とする。EXCELやSPSSを使ったデータ処理法の習熟も目指してほしい。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

教科書：

田中・山際 共著『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円

参考文献：

鶴沼・長谷川 共著『はじめての心理統計法』 東京図書 2,625円

大山ら 共著『コンパクト新心理学ライブラリ12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780901	学習心理学特論	1・2	2	

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード：

学習、適応、条件づけ、認知的学習、社会的学習

授業のテーマ：

成育後のヒトが示すほとんどの行動は生後の経験を通じて学習されたものである。したがって、学習過程の研究は人間行動の理解にとって不可欠であるといえる。この授業ではヒトや霊長類動物の発達や環境適応において重要な役割を果たしている学習行動に関する代表的な理論や研究結果を紹介し、学習という心的過程のメカニズムについて考えていく。

授業の概要：

馴化、鋭敏化、条件づけといった基本的な学習現象から、概念形成、模倣といった複雑な情報処理システムに基づいた学習現象までを解説する。さらにこうした学習現象と関連する心理過程（記憶や動機づけ）のはたらきや、比較心理学や発達心理学的観点からみた学習の意義についても考えていく。

授業の計画：

第1回	学習の定義・学習の様式	第9回	強化スケジュール
第2回	行動の分類	第10回	条件づけの応用
第3回	馴化と鋭敏化	第11回	洞察学習と概念形成
第4回	古典的条件づけの形成	第12回	社会的学習
第5回	古典的条件づけの消去と般化	第13回	技能の習得
第6回	古典的条件づけの隠蔽と阻止	第14回	動物の学習行動
第7回	オペラント条件づけの形成	第15回	学習と記憶の生理学的基礎
第8回	オペラント条件づけにおける強化		

授業方法：

プリントと映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出や小テストも実施する予定である。

達成目標：

学習における普遍的特徴と種特異性、学習と適応の関連性について、広い視野から俯瞰できるようになることを目指す。

評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

教科書：

なし

参考文献：

実森・中島共著 『コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理』サイエンス社 1,575円
岡田・廣中・宮森共著 『コンパクト新心理学ライブラリ14 生理心理学』サイエンス社 2,310円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781001	比較行動学特論	1・2	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：

授業のキーワード：

比較行動学、比較心理学、動機づけ、系統発生、適応

授業のテーマ：

ヒトと動物の動機づけ過程を取り上げ、その適応的意義について種間比較の観点から検討するとともに、行動発現のメカニズムを解説していく。さらに、またヒトの生活場面（特に学習と教育）における動機づけの問題についても、研究例をあげながら考えていく。

授業の概要：

比較行動学と比較心理学の基礎知識を確認し、ヒトとそれ以外の動物種（特に哺乳類動物）の比較という観点から動機づけの過程を俯瞰し、ヒトという種の独自性を理解していく。

授業の計画：

- 第1回 行動研究における種間比較
- 第2回 動機づけの分類
- 第3回 ホメオスタシス
- 第4回 生理的欲求における生得性
- 第5回 内発的動機（好奇動機）
- 第6回 内発的動機（操作動機）
- 第7回 社会的動機（生殖と哺育）
- 第8回 社会的動機（攻撃）
- 第9回 学習性の動機（条件性恐怖）
- 第10回 学習性の動機（学習性無力感）
- 第11回 動機づけと自律神経系のはたらき
- 第12回 動機づけと報酬系のはたらき
- 第13回 動機づけと情動
- 第14回 生活場面における動機づけの問題①
- 第15回 生活場面における動機づけの問題②

授業方法：

プリントや映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出や小テストも実施する予定である。

達成目標

比較行動学の基礎知識を習得することに加え、心理学的な観点（個体発生）のみでなく、行動学的観点（系統発生）からヒトや動物の動機づけ過程を理解できるようになることを目指す。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

教科書：

なし

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781101	産業・組織心理学特論	1・2	2	高木浩人

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	D	

授業のキーワード：

仕事への動機づけ、人事、職場の人間関係、リーダーシップ、ストレスとサポート、キャリア、消費者行動

授業のテーマ：

産業・組織心理学の重要テーマである、動機づけ、人事、リーダーシップ、キャリアなどについて理解を深める

授業の概要：

産業・組織心理学の重要概念について知るとともに、自らの生活に引き寄せて理解することで、この学問領域のもつ意味について考える。

授業の計画：

1. 産業・組織心理学の概要
2. 仕事への動機づけ
3. 人事評価制度
4. 人事測定の方法
5. 職場の人間関係と意思決定
6. 職場集団におけるリーダーシップ
7. 職場のストレスとサポート
8. 組織における協力と葛藤
9. キャリア発達を促進する支援
10. 売り手と買い手の心理学

授業方法：

各章について発表者がレジюмеを作成、配布して発表する。他の受講者は発表内容について議論する。必要に応じて担当者が解説する。それに加えて、測定尺度への回答、回答結果についての考察、シミュレーションゲーム等を実施し、理解を深める。

授業目標：

産業・組織心理学の領域で、これまでにどのようなことが研究されてきており、現代社会においてどのような意味をもっているのかについて理解すること。

評価方法：

授業時の発表、参加態度、レポートによる。

教科書：

田中堅一郎編 『産業・組織心理学エッセンシャルズ【改訂三版】』 ナカニシヤ出版 ¥2,940
 事前に教科書を購入し、受講者の中で担当箇所を決め、レジюме（1章あたりB4あるいはA3で3～4枚程度）を作成、授業時に配布、発表してください。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781201	人間関係特論	1・2	2	五十嵐祐

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	C	

授業のキーワード：

日本人論 集団主義 文化ステレオタイプ

授業のテーマ：

「日本人は集団主義的である」という通説は広く世間に受け入れられてきた。しかし、近年の心理学の研究は、この通説が「錯覚」であることを示している。この授業では、こうした文化的な思い込みが生まれる心理学的メカニズムの理解を目指す。

授業の概要：

テキストを精読し、通説としての日本人論が浸透する心理学的なメカニズムを多面的に理解する。

授業の計画：

1. 日本人論
2. 日本人論批判
3. 実証的な研究
4. 論争
5. 「集団主義的な文化」再考
6. エピソード
7. 昔の日本人
8. 戦時下の集団主義
9. 思考のバイアス
10. オリエンタリズムとしての「集団主義」
11. 「国民性」
12. 文化ステレオタイプ
13. 総合討論（1）
14. 総合討論（2）
15. 総合討論（3）

授業方法：

課題テキストを精読する。受講生は、レポーターとコメンテーターの役割を1回以上担当する（担当については、事前に割り振りを行う）。レポーターは、担当章の要点をレジюмеにまとめ、コメンテーターは、議論のきっかけとなるコメントを複数考えてくる。なお、受講人数に応じて、1名が複数回の担当となることや、逆に複数名で各回を担当することがある。レポーター・コメンテーター以外の受講生も、議論への積極的な参加が求められる。

達成目標

日本人論がどのような心理的メカニズムによって構築されてきたのかを理解する。また、現実の社会場面におけるさまざまな現象の解釈において、経験則から理解するのではなく、本授業で学んだ内容を発展的に応用して理解できることを目指す。

評価方法：

レポーター・コメンテーターとしての役割（40%）、議論への参加度（30%）、最終レポート（30%）によって総合的に評価する。

教科書：

高野陽太郎『「集団主義」という錯覚 — 日本人論の思い違いとその由来』サイエンス社、¥2,700

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781301	精神医学特論	1・2	2	総田純次

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	B	

授業のキーワード：

ケースマネジメント、サイコセラピー、病態水準

授業のテーマ：

心理療法は狭義には面接室で行われる構造化された継続的面接を指すが、心理療法は現実には当該の事例をとりまく現実的基盤に支えられている。家庭や職場などのクライアントのおかれた社会的状況、治療者の所属する組織、料金の支払いも規定する経済的状況、障害に対する社会的待遇や援助などである。心理療法はこうした現実的条件を調整のうえに可能となっており、こうした調整を事例の「マネジメント」として広義の心理療法と呼ぶこともできる。精神医学特論では、精神医学で扱われる精神障害を参照しつつ、病態水準と事例のマネジメントについて学習する。

授業の概要：

視聴覚資料も使いながら、主な精神障害について概説しつつ、それぞれの精神障害に特有の精神病理や心理療法的アプローチについて学ぶ。なお学外の病院実習の準備として、精神科薬物療法の講義の概説もする。

授業の計画：

8月21日（木）

午前

- ①心理療法とマネジメント
- ②精神障害について
- ③器質性精神障害と機能性精神障害

午後

- ④統合失調症

8月22日（金）

午前

- ⑤うつ病、躁うつ病

午後

- ⑤パラノイア、非定型精神病

8月23日（土）

午前

- ⑥境界例の精神病理、マネジメントと心理療法、
- ⑦付論：精神科薬物療法

授業方法：

各種精神障害については視聴覚資料も用いて解説する。精神病理や心理療法的アプローチについては、参考文献に上げた文献から、参加者にレジメをあらかじめ作成してもらい、それをもとにディスカッションする。付論の精神科薬物療法は教員より講義形式で解説する。

評価方法：

平常点（レジメ作成、討論）70点＋レポート30点

教科書：

指定なし

参考文献：

- 『カプラン臨床精神医学テキスト』メディカルサイエンスインターナショナル(図書館にあり)
- S.アリエティ『精神分裂病の解釈』（上・下）みすず書房
- S.アリエティ『うつ病の心理』誠信書房
- J.ガンダーソン『境界パーソナリティ障害』金剛出版
- #アリエティ、ガンダーソンの著作は古典的名著で、院生室にあってよい本です。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781501	障害者心理学特論	1・2	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	5	

授業のキーワード：

知的障害 発達障害 特別支援教育

授業のテーマ：

近年、法律の改正により対応が急務とされている障害児者について、社会的な状況をふまえた上で、それぞれの障害の特徴を理解することを目的とします。事例を通して検討を行い、適応上の問題と障害児者の家族への支援のあり方についても学びます。

授業の概要：

様々な障害の特徴と心理的援助について具体的に学びます。

授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 障害児者の歴史
3. 障害児者に関わる法律
4. 特別支援教育とは
5. 知的障害
6. 身体障害
7. 広汎性発達障害
8. 学習障害
9. AD/HD
- 10～14. 事例検討
15. まとめ

授業方法：

講義および演習形式で行います。各自が担当する部分について調べたことをもとに、レジュメを作成し、順番に発表し検討していきます。視聴覚教材を用いる場合もあります。

達成目標：

それぞれの障害の特徴と心理的特性、発達上の諸問題を理解することを目的とします。

評価方法：

課題への取り組みおよび発表内容（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781601	心理統計法特論	1・2	2	谷伊織

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	B	

授業のキーワード：

データ解析、論文読解、質問紙法、多変量解析

授業のテーマ：

心理学の研究を計画・遂行する上で、一連の統計的な手続きを理解することはきわめて重要である。

この授業では、心理学で必要とされる一連の統計技法を理解することを目的とする。

授業の概要：

授業の前半では、実際に雑誌に掲載されている論文を読みながら、そのなかで使用されている統計手法を解説する。授業の後半はコンピュータを用いてSPSSおよびAmosによる統計処理の作業を体験する。

授業の計画：

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. イントロダクション | 9. 分析手法を組み合わせる結果を導く1 |
| 2. 統計処理で陥りがちな問題点1 | 10. 分析手法を組み合わせる結果を導く2 |
| 3. 統計処理で陥りがちな問題点2 | 11. 分析手法を組み合わせる結果を導く3 |
| 4. 統計処理で陥りがちな問題点3 | 12. 分析手法を組み合わせる結果を導く4 |
| 5. 統計処理で陥りがちな問題点4 | 13. 分析手法を組み合わせる結果を導く5 |
| 6. 個別の分析手法1 | 14. 最終課題1 |
| 7. 個別の分析手法2 | 15. 最終課題2 |
| 8. 個別の分析手法3 | |

授業方法：

講義、実習、レポート作成、プレゼンテーションを組み合わせる授業を行う。

なお、受講者の理解度に合わせる授業内容を変更することがある。

達成目標：

実際の研究で陥りがちな問題点に触れながら、分析に対するクリティカルな思考ができる技術を身につける。

評価方法：

授業への参加態度50%、レポート50%で評価する。

教科書：

小塩真司『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』（東京図書）

参考文献：

各自の理解度に応じて参照すること。SPSSの操作方法と基本的な分析方法は1. を、より研究に近い応用的な分析方法を学ぶためには2. を参照すること。

1. 小塩真司『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで－』（東京図書）
2. 小塩真司『実践形式で学ぶ SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』（東京図書）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790101	比較日本文化論演習	1～2	2×2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：2カ年連続履修
通年	火	2	

授業のキーワード：

日本思想、比較思想的方法、思想の読解

授業のテーマ：

主に日本の思想を（必要に応じて外国語で書かれた思想も）原書で読むことを通して、日本文化を生み出して来た日本人のものの考え方や思想の特質を、比較思想的手法も駆使しつつ、熟考する。履修者自身が、自分の関心を研究にまで仕上げる手助けをする。

授業の概要：

上質な日本思想論をテキストとし、熟読含味する作業を行なう。単に知識として知るだけではなく、担当教員の詳しい説明を手掛かりにして、履修者が自分自身で考える力を養う。履修者による研究発表と、それについての討議と指導。

授業の計画：

前期

- ①日本思想論のテキストの解説。卒業論文に関する指導
- ②日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(1)
- ③日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(2)
- ④日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(3)
- ⑤日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(4)
- ⑥日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(5)
- ⑦日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(6)
- ⑧履修者による研究発表
- ⑨履修者による研究発表
- ⑩日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(7)
- ⑪日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(8)
- ⑫日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(9)
- ⑬日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(10)
- ⑭履修者による研究発表
- ⑮履修者による研究発表

後期

- ①日本思想論のテキストの読解、解説、討議(11)
 - ②日本思想論のテキストの読解、解説、討議(12)
 - ③日本思想論のテキストの読解、解説、討議(13)
 - ④日本思想論のテキストの読解、解説、討議(14)
 - ⑤日本思想論のテキストの読解、解説、討議(15)
 - ⑥日本思想論のテキストの読解、解説、討議(16)
 - ⑦日本思想論のテキストの読解、解説、討議(17)
 - ⑧履修者による研究発表
 - ⑨履修者による研究発表
 - ⑩日本思想論のテキストの読解、解説、討議(18)
 - ⑪日本思想論のテキストの読解、解説、討議(19)
 - ⑫日本思想論のテキストの読解、解説、討議(20)
 - ⑬履修者による研究発表
 - ⑭履修者による研究発表
 - ⑮日本思想論のテキストの読解、解説、討議(21)
- とまとめ

授業方法：

予告された箇所のテキストについて、前以て不明の箇所を調べ熟読した上で、授業に出席することを、履修者に義務づける。担当教員からの履修者に対する問いと、履修者からの応答の後、担当教員が詳しい解説を行なう。また、履修者に対する研究指導も、随時行なう。

達成目標：

熟読含味理解という作業をおろそかにしないために、進度は遅々としているが、深く考えられた思想が表現された文章をできるかぎり理解するように努める。日本の文化や思想、歴史等に対する履修者の関心を、研究といえる水準にまで高める能力を養う。

評価方法：

下準備した上での出席、発表。討議への積極的な参加。これらを総合的に評価する。

これらの諸点のいずれかにおいて、

- 優れていると認められた場合…………… A
 やや欠けるところはあるが、ある程度の努力はしたと認められた場合… B
 やや欠けるところもあり、努力する姿勢がもっと必要な場合…………… C
 Cに達しない場合…………… D

教科書：

予めこちらで把握できる履修者に関しては、年度初めまでに事前に通知する。新たな参加者に対しては、初回に知らせる。

参考文献：

授業時に適宜紹介する。

実習・実験・教材費：

不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790201	比較日本古典文学演習	1～2	2×2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード：

古典文学、古典文法、古典文学史、読解力、資料調査、発表資料の作成、プレゼンテーション、ディスカッション

授業のテーマ：

日本の近代以前の文学作品の読解を通して、日本の言語と文学についての諸問題に広く触れる。そのうえで、自ら問題点を発見し、その問題について調査・考察したことを、他者にわかりやすく説明・記述する能力を養う。

授業の概要：

はじめに講義形式で発表方法・発表資料の作成方法・参考文献の紹介などを行う。以後は、各自の選んだテーマについて、発表と質疑応答を行う。

授業の計画：

(前期・後期ともに)

- 1 はじめに
- 2 発表方法
- 3 発表資料の作成
- 4 先行論文を読む 1
- 5 先行論文を読む 2
- 6 1から5のまとめ
- 7 担当学生の発表と質疑応答
- 8 担当学生の発表と質疑応答
- 9 担当学生の発表と質疑応答
- 10 担当学生の発表と質疑応答
- 11 担当学生の発表と質疑応答
- 12 担当学生の発表と質疑応答
- 13 担当学生の発表と質疑応答
- 14 担当学生の発表と質疑応答
- 15 全体のまとめ

授業方法：

講義形式の後、発表・質疑応答の演習形式

達成目標：

日本の古典文学作品の読解を文法に則して理解することを目指す。そのうえで、自ら問題点を見だし、その問題について・調査・考察したことを他者にわかりやすく説明する能力を身につける。

評価方法：

レポート

教科書：

『新総合図説国語』東京書籍(880円)、小町谷照彦(訳注)『古今和歌集』ちくま学芸文庫(1500円+税)、※古語辞典(電子辞書は不可)を必ず持参すること。

参考文献：

授業のなかで、適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790301	日本近世教育文化論演習	1～2	2×2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード：

古文書、日本漢文、くずし字

授業のテーマ：

歴史学研究の基本である日本漢文、古文書解読の基礎的知識を修得し、初歩的な古文書などを読むようにする。

授業の概要：

基礎的な史料、古文書を輪番で解読し、日本漢文、古文書解読の基礎的な知識を修得する。また、内容について解説し、グループ討議などを行う。

授業の計画：

- | | | | |
|----|--------|----|--------------|
| 1 | 吉田松陰 | 16 | 『日本外史』① |
| 2 | 西郷隆盛 | 17 | 『日本外史』② |
| 3 | 坂本龍馬 | 18 | 『日本外史』③ |
| 4 | 橋本左内 | 19 | 『日本外史』④ |
| 5 | 石田梅岩 | 20 | 『日本外史』⑤ |
| 6 | 上杉鷹山 | 21 | 古文書 仮名読みの基礎① |
| 7 | 会沢正志斎 | 22 | 古文書 仮名読みの基礎② |
| 8 | 『旧幕府』① | 23 | 古文書 仮名読みの基礎③ |
| 9 | 『旧幕府』② | 24 | 古文書 候文の基礎① |
| 10 | 『旧幕府』③ | 25 | 古文書 候文の基礎② |
| 11 | 『旧幕府』④ | 26 | 古文書 候文の基礎③ |
| 12 | 『旧幕府』⑤ | 27 | 古文書 基礎史料解読① |
| 13 | 『旧幕府』⑥ | 28 | 古文書 基礎史料解読② |
| 14 | 『旧幕府』⑦ | 29 | 古文書 基礎史料解読③ |
| 15 | 『旧幕府』⑧ | 30 | 古文書 基礎史料解読④ |

授業方法：

最初は講義形式を中心とする。学生の進捗状況に応じて、輪読形式とする。

達成目標：

くずし字辞典を使い、史料が読め、解釈できることを目標とする。

評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

教科書：

なし

参考文献：

井上久雄著、川口雅昭訳編『大教育者のことば』致知出版社。一、六〇〇円。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800101	比較日本文化論特論	1・2	4	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	4	

授業のキーワード：

宗教経験と場、経験、物語、国語

授業のテーマ：

日本の文化と思想をめぐる諸問題について、特に経験と言葉という視点から、比較文化論的、比較思想論的考察を行なう。講義は隔年で継続発展している。

授業の概要：

日本の神社には、一定の年限を定めて社殿を造替し御神体を奉遷する式年遷宮という制度があり、今年、伊勢神宮と出雲大社の両方において、この式年遷宮が行なわれる。前期では、この式年遷宮を話の発端として、宗教経験と場という問題について考える。後期では、前期の講義の内容を前提として、「経験と言葉」という問題に考察を進める。今年度は、特に物語と日本語の場の性格について考察する。

授業の計画：

前期

- ①導入講義
- ②宗教建造物(1)
- ③宗教建造物(2)
- ④式年遷宮(1)
- ⑤式年遷宮(2)
- ⑥宗教経験と祭祀(1)
- ⑦宗教経験と祭祀(2)
- ⑧宗教経験と祭祀(3)
- ⑨場と建立(1)
- ⑩場と建立(2)
- ⑪場と建立(3)
- ⑫宗教経験と場(1)
- ⑬宗教経験と場(2)
- ⑭経験と場
- ⑮前期まとめ

後期

- ①経験と場という問題と、言葉(1)
- ②経験と場という問題と、言葉(2)
- ③言語表現としての神話(1)
- ④言語表現としての神話(2)
- ⑤物語論(1)
- ⑥物語論(2)
- ⑦物語論(3)
- ⑧物語論(4)
- ⑨物語論(5)
- ⑩物語論(6)
- ⑪日本語の場の性格(1)
- ⑫日本語の場の性格(2)
- ⑬日本語の場の性格(3)
- ⑭日本語の場の性格(4)
- ⑮今年度の講義のまとめ

授業方法：

必要に応じて、参考資料をコピーで配布する。それぞれの思想の言葉に実際に触れることを通して、講義の理解を深めるとともに、その思想の言葉を手掛かりとして、受講者が自分自身で考える姿勢を身につけてほしい。

達成目標：

講義で考察される問題がどういう問題であるのかを理解し、それが受講者自身にとって、また現代にとってどういう意味をもつ問題であるか理解する。

評価方法：

(a)授業への取り組み、(b)学期末試験、(c)レポートを同等の比重で重視する。

(a)における真摯な態度を前提とした上で、(b)と(c)において、

- 講義の理解度が特に優れ、課題についてよく考えられていると認められた場合……………A
 理解度にやや不十分さはあっても、少なくとも要点は理解できていると認められた場合……B
 かなりの不十分さはあるにせよ、理解できている問題もいくつかはあると認められた場合…C
 Cに達していない場合……………D

教科書：

特になし。

参考文献：

参考文献は授業中に適宜紹介する。その中の一冊を、レポートの課題図書とすることもある。

実験・実習・教材費：

不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800201	比較日本古典文学特論	1・2	4	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期/後期	木/水	4/3	

授業のキーワード：

万葉集・古今和歌集・和歌・和歌の修辞

授業のテーマ：

最初の勅撰和歌集『古今和歌集』以来、季節の風物は和歌の中心的主題とされた。この講義では、その『古今和歌集』に先立つ『万葉集』の丁寧な読解を通して日本文化の基底にある季節観を知ることからはじめ、『古今和歌集』の読解へと進む。後期は和歌を理解するための和歌の修辞・文法的知識にも触れる。

授業の概要：

『万葉集』『古今和歌集』についての基礎的な知識を習得する。

『万葉集』『古今和歌集』の季節把握とその表現の特質を学ぶ。

授業の計画：

(前期)

- 1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介など
- 2 『万葉集』についての概説 1
- 3 『万葉集』についての概説 2
- 4 『万葉集』の春の歌 1
- 5 『万葉集』の春の歌 2
- 6 1から5までのまとめ
- 7 『万葉集』の夏の歌 1
- 8 『万葉集』の夏の歌 2
- 9 『万葉集』の秋の歌 1
- 10 『万葉集』の秋の歌 2
- 11 6から10までのまとめ
- 12 『万葉集』の冬の歌 1
- 13 『万葉集』の冬の歌 2
- 14 全体のまとめ 1
- 15 『古今和歌集』へ

(後期)

- 1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介・歴史的事項の確認
- 2 『古今和歌集』について
- 3 『万葉集』から『古今和歌集』へ
- 4 和歌の修辞
- 5 1から4のまとめ
- 6 『古今和歌集』1 (以下、担当学生の発表)
- 7 『古今和歌集』2
- 8 『古今和歌集』3
- 9 『古今和歌集』4
- 10 『古今和歌集』5
- 11 『古今和歌集』6
- 12 『古今和歌集』7
- 13 『古今和歌集』8
- 14 『古今和歌集』9
- 15 全体のまとめ

授業方法：

(前期)講義形式を基本とする。

(後期)前半は講義形式、後半は担当する歌を決めて発表・演習形式とする。

達成目標

(前期)『万葉集』についての基礎的な知識を習得するとともに、万葉歌の表現の特質を理解する。

(後期)『古今和歌集』についての基礎的な知識を習得するとともに、古今和歌集の歌の表現の特質を理解する。

評価方法：

レポート

教科書：

(前期)森淳司(編)『訳文万葉集』笠間書院(1800円+税)、『新総合図説国語』(880円)

(後期)小町谷照彦(訳注)『古今和歌集』ちくま学芸文庫(1500円+税)、鈴木日出男(編)『原色小倉百人一首』文英堂(533円+税)、『新総合図説国語』(880円)※後期は必ず古語辞典(電子辞書不可)を持参すること。

参考文献：

授業のなかで適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800301	日本近世教育文化論特論	1・2	4	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード：

近世、教育（人づくり）、社会

授業のテーマ：

18世紀末からのウエスタン・インパクトと国内支配体制の混乱に対して、我国の武士階級が行った対応は、人材育成という抜本的改革であった。そして、そこで養成された人材は、結果的に「明治日本」発展の中心的役割を果たすこととなった。

そこで、本講義では、近世、とりわけ、幕末という時代を理解させるため、幕末期の天皇と幕府の関係を中心として、その社会を考える。そして、とりわけ、幕末期において、特異な人づくりを行ったと思われる、長州藩及び薩摩藩における学校教育（主に藩校教育）などを考える。

授業の概要：

18世紀終わりから、19世紀初めに在位された光格天皇は、ある意味では、我国の幕末という時代を準備された天皇であった。そこで、まず、天皇と幕府との関係を中心として、幕末という時代を理解させる。そして、その中で諸問題に対し、長州、薩摩藩がどのような人づくりを行ったかを理解させる。

授業の計画：

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1. 幕末期の政治と教育—政治動向①光格天皇の誕生①— | 16. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育①— |
| 2. 幕末期の政治と教育—政治動向①光格天皇の誕生②— | 17. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育②— |
| 3. 幕末期の政治と教育—政治動向②天明の大飢饉と天皇①— | 18. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育③— |
| 4. 幕末期の政治と教育—政治動向②天明の大飢饉と天皇②— | 19. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育④— |
| 5. 幕末期の政治と教育—政治動向③光格天皇の君主意識①— | 20. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育⑤— |
| 6. 幕末期の政治と教育—政治動向③光格天皇の君主意識②— | 21. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾①— |
| 7. 幕末期の政治と教育—政治動向④対外的危機と朝廷①— | 22. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾②— |
| 8. 幕末期の政治と教育—政治動向④対外的危機と朝廷②— | 23. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾③— |
| 9. 幕末期の政治と教育—政治動向⑤大政委任論の成立①— | 24. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾④— |
| 10. 幕末期の政治と教育—政治動向⑤大政委任論の成立②— | 25. 幕末期の教育現状—私塾の教育—咸宜園①— |
| 11. 幕末期の政治と教育—政治動向⑥天皇号の再興①— | 26. 幕末期の教育現状—私塾の教育—咸宜園②— |
| 12. 幕末期の政治と教育—政治動向⑥天皇号の再興②— | 27. 幕末期の教育現状—私塾の教育—適塾— |
| 13. 幕末期の教育現状—長州藩を中心として— | 28. 「学制」の制定と近代学校制度の整備① |
| 14. 幕末期の教育現状—薩摩藩を中心として— | 29. 「学制」の制定と近代学校制度の整備② |
| 15. まとめ | 30. まとめ |

授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

達成目標：

幕末という時代を代表する史料を読み取り、また、その時代を理解できる能力を習得する。

評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

教科書：

なし

参考文献：

なし。史料は適時配布。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
840301	日本近・現代史特論	1・2	4	田浦雅徳

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	2	

授業のキーワード：

立憲政治 明治憲法 日清戦争 日露戦争 太平洋戦争

授業のテーマ：

近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。具体的には幕末のペリー来航から立憲政治の確立、日清・日露戦争から太平洋戦争終戦までの政治過程を講義する。もって近代国民国家としての日本が如何にして形成され、激動の近代国際社会の中で苦闘の歴史を築いたかを知る。

授業の概要：

明治憲法の成立から太平洋戦争にいたる歴史をたどっていく。

授業の計画：

〔前期〕

- 第1回 立憲政治実現過程の日欧比較
- 第2回 幕閣専断から公議輿論の尊重へ
- 第3回 加藤弘之の「鄰艸」
- 第4回 王政復古の政変
- 第5回 五箇条の御誓文
- 第6回 「公議」の制度化への試み
- 第7回 版籍奉還と廃藩置県
- 第8回 岩倉使節団
- 第9回 征韓論と明治六年の政変
- 第10回 大久保利通と明治政府
- 第11回 民撰議院設立建白書
- 第12回 自由民権運動
- 第13回 士族反乱と西南戦争
- 第14回 さまざまな憲法構想
- 第15回 明治十四年の政変
- 第16回 前期末試験

〔後期〕

- 第1回 伊藤博文の憲法調査と宮中改革
- 第2回 内閣制度の創設と憲法の発布
- 第3回 第一回帝国議会の開会
- 第4回 第四議会と和衷協同の詔勅
- 第5回 条約改正と対朝鮮政策
- 第6回 壬午・甲申事変
- 第7回 日清戦争
- 第8回 三国干渉と日露の対立
- 第9回 日露戦争
- 第10回 日露戦後の内政と外交
- 第11回 第一次大戦とワシントン会議
- 第12回 満洲事変の原因とその勃発
- 第13回 協調と対立の中の昭和十年代
- 第14回 太平洋戦争の勃発と戦争目的
- 第15回 戦時外交と終戦
- 第16回 後期末試験

授業方法：

教科書を読みながら、パワーポイントのスライドを使って解説を行う。

達成目標：

授業の内容をしっかりと把握する。

評価方法：

試験（100％）によって評価する。

教科書：

鳥海靖『日本の近代＝国民国家の形成・発展と挫折』放送大学教育振興会、2,100円

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし